



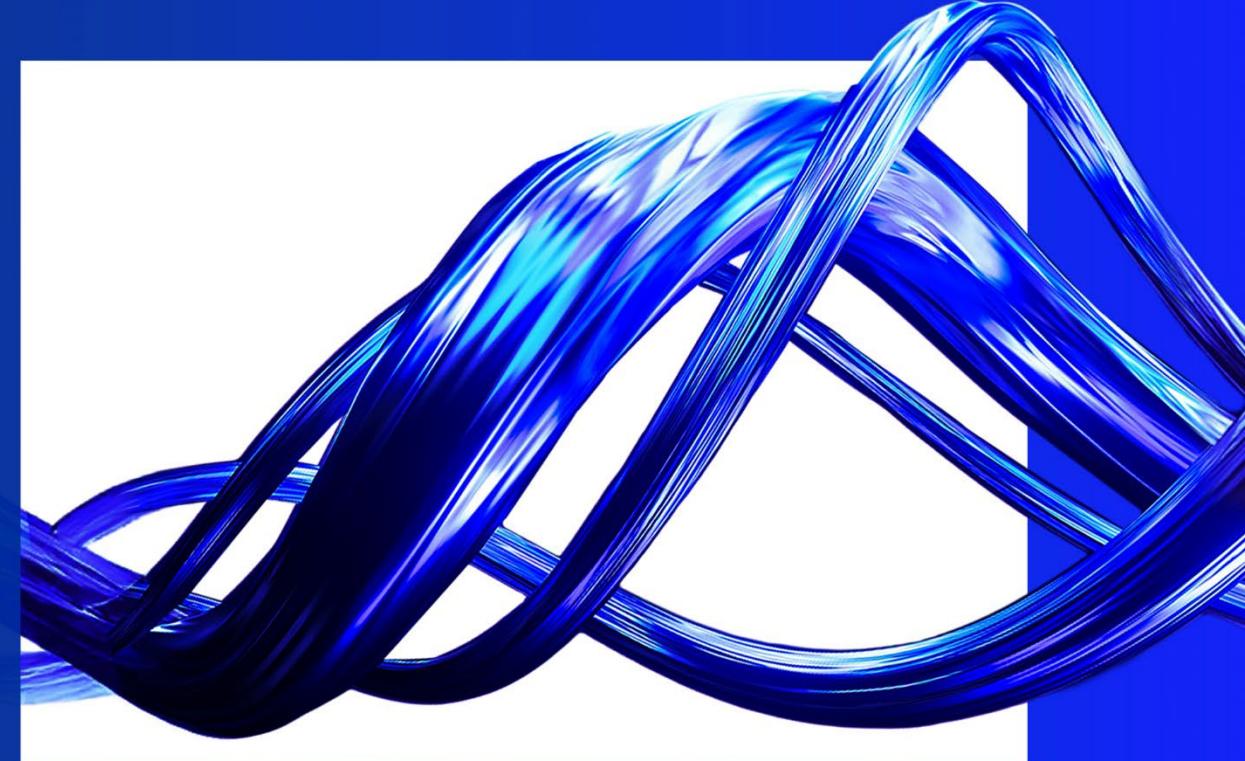
Venture Pulse

Q3 2025

Global analysis of venture funding
日本語抄訳版

KPMG. Make the Difference.

2025年12月



要旨



グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資は、1,207億ドル（取引数：7,579件）に増加
- 資金調達規模は引き続き増加傾向
- コーポレートベンチャーキャピタルは、好調な四半期を記録
- イグジットは3四半期連続で増加
- 世界の上位取引10件のうち8件は米国で実施

米国

- ベンチャーキャピタルによる投資は、取引数が減少するなか809億ドルに増加
- レイターステージのバリュエーションが上昇傾向に
- AI分野が大型の投資を引き付ける
- イグジットは穏やかに上昇
- AI分野への投資は衰えを見せず
- 資金調達活動は控えめな傾向が続く

南北アメリカ

- ベンチャーキャピタル支援企業が851億ドル（取引数：3,474件）を調達
- アップラウンドが復調の兆しを見せる
- AI分野がレイターステージのバリュエーションを押し上げる
- カナダにおける取引額は2022年以来の高水準に
- メキシコは好調だった第2四半期を経て勢いが弱まる
- ブラジルにおけるベンチャーキャピタルによる投資は2022年第3四半期以来の高水準に

欧州

- ベンチャーキャピタルによる投資は、175億ドル（取引数：1,625件）とわずかに増加
- レイターステージのバリュエーションは引き続き上昇
- プレシードラウンドは取引数で高いシェアを確保
- 初回の資金調達は底堅く推移
- イグジットは3四半期連続で増加

アフリカ

- アフリカのベンチャーキャピタル市場は急成長を経て第3四半期は一服
- フィンテック分野がベンチャーキャピタル市場を支配
- 気候テックとアグリテックが次の成長分野として浮上

アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資は、168億ドル（取引数：2,310件）にとどまる
- ベンチャーの成長率の中央値は前年比で減少
- IT系ハードウェアへの投資が急増
- 株式の上場によるイグジットが増加
- 上位取引10件のうち7件は中国で実施

グローバルー2025年第3四半期 (1/3)

2025年第3四半期、世界のベンチャーキャピタルによる投資は1,200億ドルとなり、4四半期連続で増加しました。南北アメリカと欧州では季節的な要因もあり、全体的な取引数や取引規模がわずかに減少しましたが、投資家の流動性経路に関する楽観的な見方もあり、市場全体の動きはポジティブでした。

南北アメリカがベンチャーキャピタル投資の最大シェアを占める

2025年第3四半期、レイターステージでの圧倒的な投資もあり、南北アメリカが再び世界のベンチャーキャピタル投資において最大シェアとなりました。当四半期の世界の5大投資案件のうち、Anthropicによる130億ドルのほか、xAIによる100億ドル、Geneysysによる15億ドルと、3つの案件が米国でした。これらの大型投資は、南北アメリカ地域において季節的な要因により投資活動が減速したにもかかわらず、AI（人工知能）と次世代技術への投資家の継続的な投資欲求を示しています。

欧州では、最先端分野における革新的な技術であるフロンティア技術への期待を示す20億ドル以上の投資に支えられ、ベンチャーキャピタルによる投資は四半期ベースで微増しました。フランスのMistralはAIプラットフォームの開発を加速させるために15億ドルを調達したほか、英国のNscaleも、欧州のスケールアップが国際競争力を持つという投資家からの信頼もあり15億ドルを調達しました。

一方アジアでは、欧州とは対照的により慎重な投資環境を反映し控えめな動きが続きました。アジアにおける当四半期最大の案件は、中国の自動車メーカーFAW Bestuneによる4億6,200万ドル、物流・インダストリアル不動産を手がけるGLPグループによる3億4,800万ドル、中国の航空宇宙分野のスタートアップGalactic Energyによる3億3,500万ドルでした。アジアにおけるこれらの投資案件は大型ではあるものの、南北アメリカや欧州には遠く及ばず、資本展開における地域格差を浮き彫りにしました。

AI分野が依然としてベンチャーキャピタルの最優先投資分野に

2025年第3四半期も世界のベンチャーキャピタルはAI分野への投資を続け、多くのAIモデルやAIプラットフォーム開発企業が、当四半期で最大の資金調達ラウンドに成功しました。AnthropicやxAI、Mistralによる10億ドル超の大型資金調達に加えて、ニューヨークに拠点を置くReflection AIも10億ドルを調達しました。

AI分野への投資の急増は米国や欧州に限ったことではなく、カナダではCohereが6億ドルを調達したほか、中国ではMiniMax AIが3億ドルのラウンドを実施しました。これら注目度の高い案件のほかにも、AIを利用したカスタマーサービスエージェントを開発する米国のSierraによる3億5,000万ドルのほか、AI駆動のデータセンター開発を手がける中国のGLPの3億4,800万ドル、Runhui Technology Developmentの2億5,600万ドル、AIを活用したWebとアプリケーション開発を手がけるスウェーデンのLovableの2億ドル、AIを活用した法律研究プラットフォームを手がけるカナダのBlue Jの1億2,200万ドルなど、多くの地域でAI関連のスタートアップが成長に必要な資金を調達しています。

これらは、AIが世界のベンチャーキャピタルの主要な投資分野であり続けていることを示しており、基礎的なAIモデルやインフラから特定の業界に特化した垂直型ソリューションまで、さまざまな地域やユースケースで大型の投資を引き付けています。また、AIソリューションへの高い関心は、AI人材について地域を超えて競争的な環境を作り出しており、多くの企業が高度なスキルを持つAI人材の獲得を目的に、AI関連スタートアップの買収を検討しています。

グローバルー2025年第3四半期 (2/3)

防衛テックが引き続き世界的に注目を集める

地政学的な緊張が高まるなか、2025年第3四半期も防衛テック分野がベンチャーキャピタル投資の優先分野であったことは驚くことではありません。当四半期、この分野では電動垂直離着陸機 (eVTOL) を開発する米国のBETA Technologiesによる4億6,900万ドルのほか、米国のCastelionの3億5,000万ドル、中国のGalactic Energyの3億3,400万ドル、米国のHadrianの2億6,000万ドル、中国のXPeng Aerohtの2億5,000万ドルが挙げられます。

軍事と産業の両分野で利用できるデュアルユーステクノロジーへの投資家の関心は、複数の市場に対応できるスケーラブルなイノベーションへのシフトを反映し、ますます高まっています。各国・地域政府が軍事インフラの近代化と国内能力の強化に向けた取組みを加速させるなか、防衛テック分野は、世界のベンチャーキャピタル市場において、持続的かつ長期的な成長が見込まれます。

ハードウェアが世界のベンチャーキャピタルの間で一定の牽引力を獲得

中国の多くのベンチャーキャピタルは過去5年間、中国の中央政府の戦略的優先事項と密接に関連し、ハードウェア関連への投資機会に焦点を当て続けてきました。その傾向は2025年第3四半期も続き、データセンターインフラを手がけるGLPグループとRunhui Technology Developmentがそれぞれ3億4,800万ドルと2億5,600万ドルを調達したほか、空飛ぶ自動車を手がけるXPeng Aerohtは2億5,000万ドルを、EVとハイブリッドトラックメーカーのFarizonが2億ドルを調達しました。

これらの案件は、中国のハードウェア主導のイノベーションエコシステムが特に商業的利益と戦略的国益の交差点に位置する先進的なモビリティとインフラにおいて、いかに重要な資本を引き付け続けているかを示しています。

他の地域のベンチャーキャピタルもAIに必要なインフラへの高い関心もあり、過去数四半期にわたって半導体やデータセンター、発電設備などのハードウェア中心のスタートアップへの関心を高めてきました。現在の地政学的および貿易上の緊張を考慮して、重要なコンポーネントの輸入依存度を減らす動きが、ハードウェア関連への投資の増加につながっている可能性が高いと考えられます。

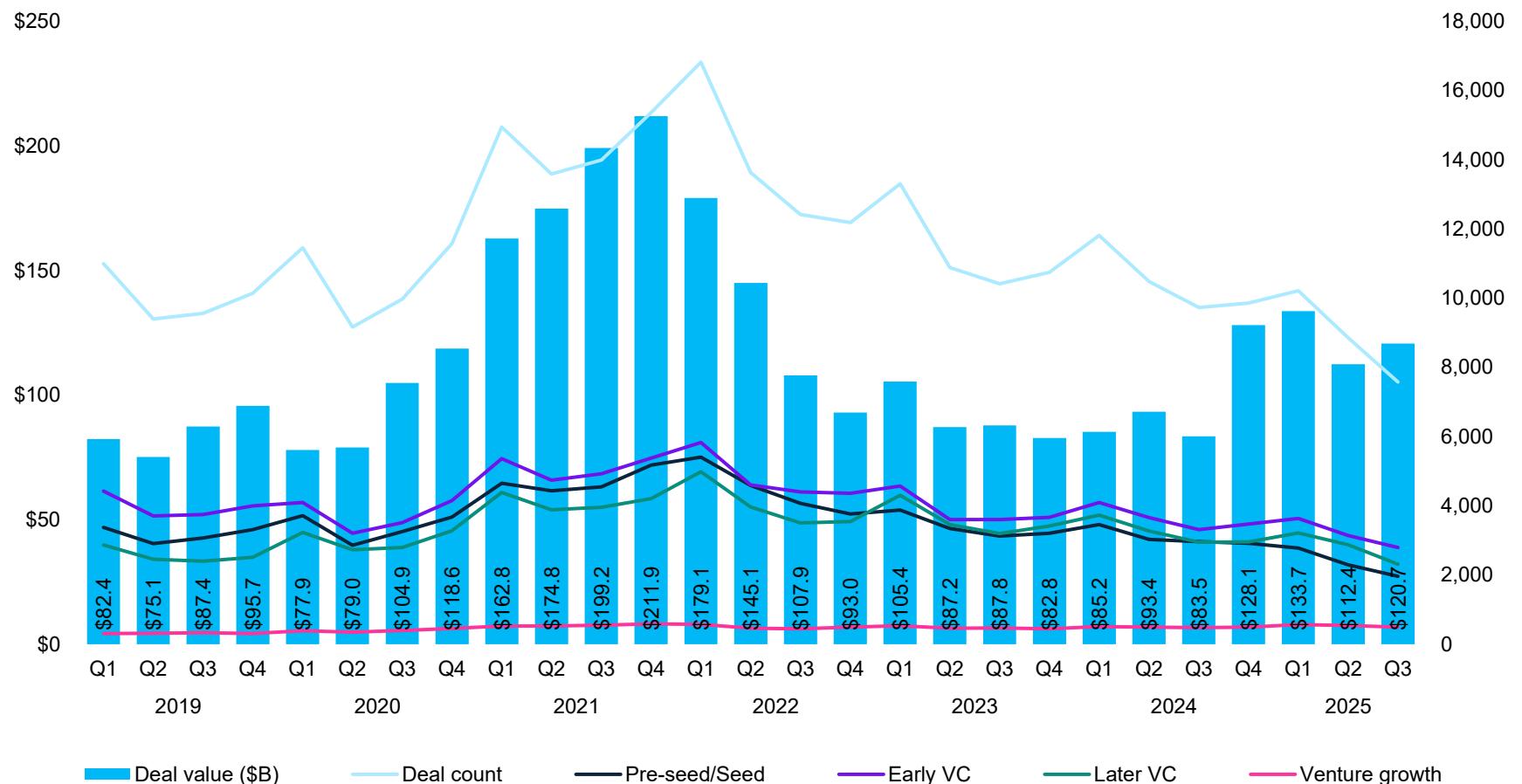
2025年第4四半期に注目すべきトレンド

2025年第4四半期に目を向けると、世界のベンチャーキャピタルによる投資はAIモデルや特定の業界にフォーカスしたAIソリューション、AIインフラへの継続的な投資もあり、比較的安定した状態が続くと予想されます。また、ロボティクス分野も次の四半期に向けてさらに勢いを増すと考えられます。AIへの投資家の関心の高さを考えると、AI関連のソリューションを持たない企業は今後資金調達に苦慮する可能性がある一方、アフリカやラテンアメリカ、東南アジアなどの地域ではフィンテックが投資の最優先分野であり続ける可能性が高いと考えられます。2025年第4四半期、イグジットが世界的に増加すると予想されます。成熟したスタートアップが米国のIPO環境の改善を活用すると考えられることから、2026年はより実質的な回復が見込まれます。

グローバルー2025年第3四半期 (3/3)

Global venture financing

2019–Q3'25



Source: Venture Pulse, Q3'25, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of September 30, 2025. Data provided by PitchBook, October 15, 2025.

前四半期に見られた慎重な楽観的な見方は、眞の樂観主義に変わりました。これまでにIPOを行った企業が好調な業績を維持し、また最近上場した企業も好調で、全体として見通しは明るいと感じます。分野別に見ると大きな変化はなく、依然としてAIが最もホットな分野であり、また防衛テックも引き続き高い関心を集めています。フィンテックは暗号通貨をはるかに超えて素晴らしい1年でした。2025年第4四半期から2026年に向けて、あらゆる指標が引き続き好調であることを示しています。



Conor Moore
Global Head
KPMG Private Enterprise
KPMGインターナショナル
Partner
KPMG米国

米国 – 2025年第3四半期 (1/3)

2025年第3四半期、米国のベンチャーキャピタル市場ではIPOによるイグジットの増加に加え、各ステージでのバリュエーションの上昇、AI関連ソリューションに対する活発な投資環境に支えられ、新たな楽観論が定着し始めました。

米国ではAIへの投資が過熱、過去最大のシードラウンドが実施される

米国は2025年第3四半期もAI分野への投資の中心地であり続け、南北アメリカ地域における大型案件の多くを占めました。Anthropicによる130億ドルとxAIの100億ドルに加え、この分野で急成長しているReflection AIによる10億ドルのラウンドなど、AIシステムと大規模言語モデル（LLM）関連企業が当四半期の大型案件を独占しました。

当四半期、米国では基盤モデルのプレーヤーに加えて、AIインフラの主要プレーヤーであるDatabricksによる10億ドルとGroqの7億5,000万ドル、そして新興のAIアプリケーション企業であるMagicの5億5,000万ドルなど、より広範なAIエコシステムのプレーヤーもレイターステージでの資金調達に成功しました。その他にも、当四半期の主要なラウンドにはAIを使った検索を再定義するPerplexity AIによる6億ドルのほか、AIを活用してフィンテックの経費管理を変革するRampの5億1,400万ドル、AIコーディングソリューションを手がけるCognition AIの5億ドルが挙げられます。

これらの主要なラウンドは、インフラから基盤モデル、特定の業界に特化した垂直市場向けソリューションに至るまで、AI分野が米国のベンチャーキャピタルの成長ドライバーとしての地位を確固たるものにしています。

活発化するIPO市場

米国のIPO市場は、2025年第2四半期は慎重ながらも楽観的な見方が大勢を占めていましたが、2025年第3四半期に入って再び活発化し、いくつかの注目度の高いIPOが行われました。2025年7月にはコラボレーション・デザイン・プラットフォームを手がけるFigmaがIPOにより12億ドルを調達しました¹。株価も取引初日に250%上昇し、その後の市場に強気トレンドをもたらしました。

1 <https://techfundingnews.com/figma-68b-valuation-record-first-day-ipo-gains/>

2 <https://techcrunch.com/2025/09/10/klarnas-ipo-pops-raising-1-4b-with-sequoia-as-the-biggest-winner/>

3 <https://www.cnbc.com/2025/09/10/klarna klar-stock-soars-after-us-ipo.html>

続いてBullishが、暗号資産取引所として初めてニューヨーク証券取引所（NYSE）に上場し、11億ドルを調達しました。Bullishの株価は初日に84%上昇し、規制の厳しい暗号資産プラットフォームに対する投資家の高い関心を示しました。さらに、IPO市場の勢いに乗って、スウェーデンに拠点を置くKlarnaもIPOを行い1.4億ドルを調達²とともに、初値取引で株価が15%上昇しました³。

当四半期に相次いだIPOによるイグジットは、米国のIPO市場が順調に回復していることを示唆しています。長きにわたりIPO市場の低迷期が続いたことから、米国にはIPOによるイグジットの準備が整ったスタートアップが数多く存在します。IPO市場の状況がこの先も比較的安定していれば、今後数四半期の間にIPOが活発になる可能性があります。

米国でのM&Aは4年ぶりの高水準に

米国におけるM&Aは2025年第3四半期も勢いを増し続けており、2025年のイグジットの総額は第4四半期を待たず、第3四半期時点ですでに4年ぶりの高水準に達しています。これは、米国司法省がM&Aポリシーに基づいた考えを示したことでも影響し、大型のM&Aが再び行われるという慎重ながらも楽観的な見方が広がっているからと考えられます。

さまざまな業界の多くの企業が、急速な変化への対応と競争力を維持するためにテクノロジーの導入を加速する必要性を認識しています。そうしたなか、イノベーションと拡張性を獲得できるM&Aによるスタートアップの買収への企業の新たな意欲につながっています。

さらに、企業がM&Aによるスタートアップの買収を通して技術系人材の獲得を強化しようすることからスタートアップの買収が増加しています。この傾向は、高度なスキルを持つエンジニアや研究者の需要が供給をはるかに上回っているAI分野で特に顕著で、M&Aは今後数四半期にわたり重要な戦略的手段であり続けると考えられます。

米国 – 2025年第3四半期 (2/3)

ベンチャーキャピタルは依然として収益性を重視。アーリーステージには厳しい環境が続く

米国のベンチャーキャピタルはAI分野以外では成長を示すだけでなく、強固なビジネス基盤と収益性への道筋を示す企業を優先しています。これは資金調達における初期段階でいくつかの圧力を生み、収益性への明確な見通しがない企業の資金調達はより困難になっています。

フィンテック分野での再編が始まる

米国では、市場への適合や成長に必要な企業規模に達することが難しく、資金が不足しているフィンテック企業が増えています。その結果、フィンテック市場では以前から予想されていた再編の波が起こり始めており、苦戦している企業が競合に吸収されるケースが見られます。

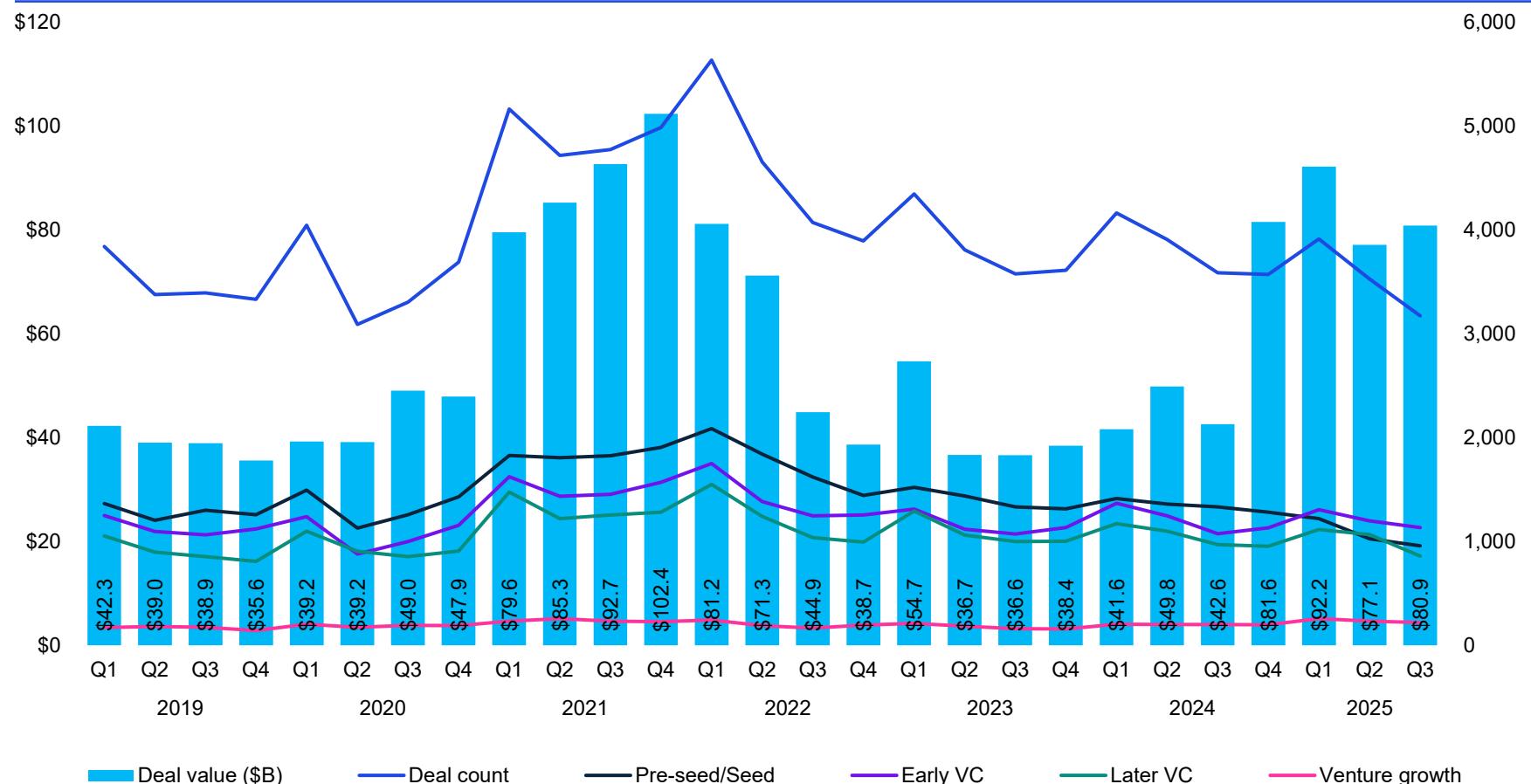
2025年第4四半期に注目すべきトレンド

2025年第4四半期に向けて、米国のベンチャーキャピタル市場には楽観的な見方が広がっており、AIや防衛テック、宇宙テック分野は今後多くのベンチャーキャピタルからの投資を受けると予想されます。また、フィンテックについても、第2四半期のChimeと第3四半期のKlarnaによるイグジットの成功を考えると、フィンテック分野でのイグジットは引き続き増加すると考えられます。市場の安定が続ければ、IPOによるイグジットが第4四半期から2026年にかけてさらに勢いを増す可能性があります。

米国 – 2025年第3四半期 (3/3)

Venture financing in the US

2019–Q3'25



Source: Venture Pulse, Q3'25, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of September 30, 2025. Data provided by PitchBook, October 15, 2025.

米国での投資の多くをAI分野が占めています。AI関連スタートアップはコンピューティングパワーを生み出すため、あるいは適切な人材を雇うために多額の資金を必要とし、AI分野での投資のいくつかはそれらを反映していると思われます。投資家が企業に大きな賭けをしているのは、適切な人材を確保して適切な製品を生み出し、企業が意図していることを実行するために十分な帯域幅を提供するために、これらの2つの項目を実際に推進できるようにするためです。



Shivani Sopory
Partner
KPMG米国

南北アメリカー2025年第3四半期 (1/3)

2025年第3四半期の南北アメリカのベンチャーキャピタルによる投資は比較的安定しており、取引数が減少したにもかかわらず前四半期の800億ドルから850億ドルに増加しました。米国以外では、カナダのCoherenceが当四半期の米国を除く同地域で最大となる6億ドルを調達したほか、ラテンアメリカではブラジルのQI Techが3億1,300万ドルを、またメキシコのVEMOがPEグロースラウンドで2億5,000万ドルを調達するなど、新興市場におけるフィンテックとモビリティによるイノベーションの可能性について、ベンチャーキャピタルの関心の高さを示しています。

投資家の収益性重視の姿勢から、AI分野以外の案件は低迷

2025年第3四半期、南北アメリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資件数は過去数年で最低を記録し、取引活動の抑制傾向が続いている。投資の減速は米国とカナダの投資家の多くが夏季休暇で投資を控える夏枯れ相場が要因と考えられるほか、地政学的、貿易的、そしてより広範なマクロ経済的な不確実性に直面していることが影響していると考えられます。

AI分野での大型案件を除くと、南北アメリカ地域の多くのベンチャーキャピタルは収益性を示しているスタートアップや収益性を達成するための明確で短期的な道筋を持つスタートアップに軸足を置いています。これらの投資家の動きは全体的な取引数の減少につながっていますが、各ステージにおける取引規模は大きくなっています。第3四半期末時点では、プレシード、アーリーステージ、レイターステージ各ラウンドの年間取引規模の中央値は上昇しており、投資家は慎重である一方、強固なファンダメンタルズを持つスタートアップへの資本投入を惜しまない姿勢を示唆しています。

ラテンアメリカで注目を集めるフィンテック。メキシコのフィンテック企業が銀行免許の取得を目指す

2025年第3四半期、フィンテック分野がラテンアメリカの多くの国でベンチャーキャピタルから最も高い関心を集め、ブラジルではQI Techの3億1,300万ドルとNeonの1億3,100万ドル、メキシコではKapital Bankの1億ドルと、両国ではフィンテック分野が最大の案件になりました。ブラジルではERPソリューションプロバイダーのOmieも1億5,700万ドルを調達しており、同地域で拡大する中小企業ビジネスエコシステムを支えるSaaSプラットフォームに対する投資家の関心が高まっていることを示しています。

メキシコでは、フィンテック業界はこの数四半期で進化と成熟を続けており、成長中の多くのフィンテック企業が自社のサービス提供範囲をクレジットカードの発行分野から銀行サービスへと拡大しようとしています。そうしたなか、銀行免許の取得には時間がかかることから、銀行免許の取得を目的としたフィンテック企業による戦略的買収が行われており、たとえば、当四半期には、メキシコを拠点とするフィンテック企業のKlarがデジタル銀行のBineoの買収でGrupo Financiera Banorteと合意しました⁴。

カナダは好調な四半期に

2025年第3四半期のカナダにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、米国との貿易摩擦などの経済的な逆風が続くなかったり、いくつかの注目度の高い案件もあり勢いを増しました。なかでも、Cohereによる6億ドルは、AIモデル開発のリーディングハブとしてのカナダの地位を確固たるものになりました。

Cohere以外にも、AI駆動の税務調査に焦点を当てたBlue Jによる1億2,200万ドルのほか、AIを鉱山探査に活用するGeologic AI の4,400万ドル、農業のためのロボット工学を進歩させる4AG Roboticsの2,900万ドルなど、特定の業界に特化したAIや自動化システムのスタートアップが資金を集め、カナダのエコシステム全体にわたるイノベーションの幅広さが伺われます。

これらの案件から、カナダのベンチャーキャピタル市場は回復力があり、AIと自動化システムに支えられていることがわかります。投資家は、基礎技術プレーヤーと伝統的な産業の特殊なアプリケーションの両方を支援しています。

4 <https://www.retailbankerinternational.com/news/clar-bineo-digital-bank-acquisition/>

南北アメリカー2025年第3四半期 (2/3)

米国とカナダではAI分野が最大の投資案件を占める

2025年第3四半期、AIが南北アメリカにおけるベンチャーキャピタル活動の主要なエンジンであり続けるとともに、当四半期の南北アメリカ地域での最大規模の案件の多くを占めました。米国ではAnthropicによる130億ドル、xAIの100億ドル、Reflection AIの10億ドルに加えて、AIを利用した検索の進歩を手がけるPerplexity AIの6億ドル、AIを活用してフィンテックの経費管理を破壊するRampの5億1,400万ドル、そしてAI対応のコーディングソリューションに焦点を当てたCognition AIの4億ドルなど、高成長を続ける複数のAI企業も多額の資金を調達しました。

AI分野はカナダのベンチャーキャピタルでも上位を占めました。当四半期のカナダでの最大の案件はCoherenceによる6億ドルのラウンドで、LLMのグローバルリーダーとしての同社の地位を強固なものにしたほか、AI駆動の税務調査プラットフォームを手がけるBlue Jによる1億2,200万ドルが続きました。カナダにおけるAI分野の勢いはカナダ政府による支援の影響が大きく、カナダでは優秀なAI人材の獲得に向けたイニシアチブなど、カナダが世界のAI競争で競争力を維持するための政策を推進しています。

AIは南北アメリカにおける大規模な投資活動を推進しているだけでなく、国のイノベーション戦略を形成していることは明らかです。さらに、この地域のベンチャーキャピタルにとっての決定的な成長テーマとしての役割を担っています。

2025年第4四半期に注目すべきトレンド

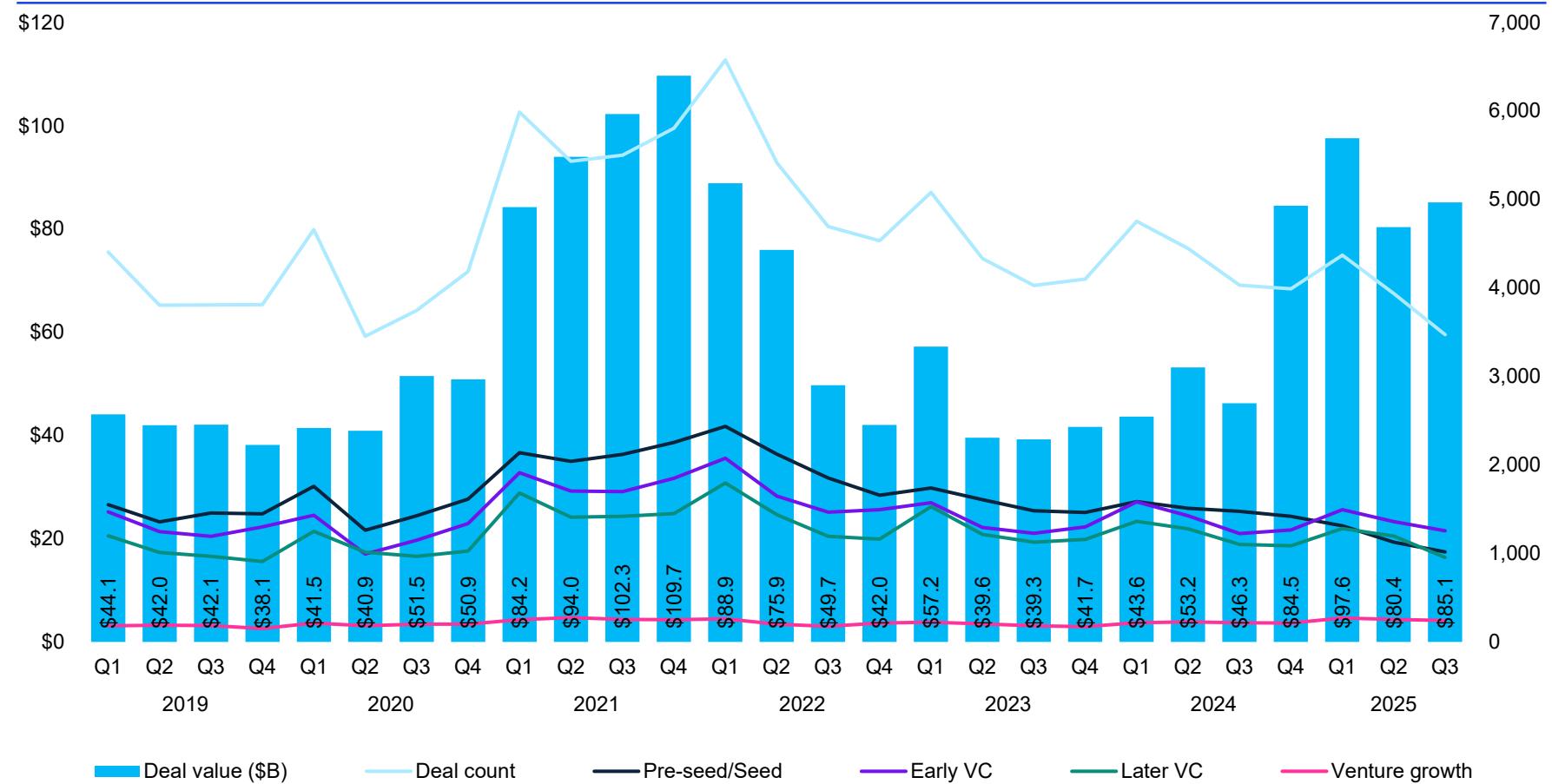
2025年第4四半期に向けて、南北アメリカのベンチャーキャピタル市場は主に米国のIPO市場の回復に支えられ楽観的な見方が広がりつつあります。米国とカナダではAIが引き続き最もホットな投資分野になると予想され、フィンテックとヘルステック分野は同地域のより広い範囲で高い関心を集めると考えられます。カナダでは、政府の科学研究実験開発 (Scientific Research and Experimental Development : SR&ED) 優遇税制プログラムの見直しを注視する必要があります。SR&ED制度の強化は特にアーリーステージのスタートアップに対し、資本効率の改善とイノベーションのパイプラインの加速という好影響をもたらすと考えられます。メキシコでは、米国との関税交渉が解決するとの期待から投資家心理が改善しており、第4四半期後半から2026年にかけて海外からの投資が増える可能性があります。フィンテックはメキシコで最も魅力的な投資分野であり続ける可能性が高く、特にデジタル金融サービスが注目されます。

これらのダイナミクスを総合すると、2025年第4四半期の南北アメリカのベンチャーキャピタル市場は、北米ではAIが大規模な投資を促進し、ラテンアメリカではフィンテックが引き続き投資家の関心を集めると考えられます。

南北アメリカー2025年第3四半期 (3/3)

Venture financing in the Americas

2019–Q3'25



Source: Venture Pulse, Q3'25, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of September 30, 2025. Data provided by PitchBook, October 15, 2025.

“AIは今後もカナダにおける大型案件の原動力となると考えられます。さまざまな業界でAIへの関心が高まっており、特にロボティクス分野との関連が注目されます。カナダはこの分野で、そしてより広い意味でのAIのリーダーとして自らを位置付けており、今後数四半期にわたって注目すべき分野となっています。”



Ryan Forster
Partner
KPMG カナダ

欧州 – 2025年第3四半期 (1/3)

2025年第3四半期の欧州におけるベンチャーキャピタルによる投資は174億ドルとなり、第2四半期の152億ドルから増加したものの、取引数は引き続き低迷しました。当四半期はAI分野でフランスのMistral AIによる15億ドルのほか、英国のNscaleの15億ドルなどいくつかの大型案件があり、これらを合わせると欧州地域での資金調達のかなりの部分を占めました。AI分野以外にも、欧州ではフィンテックやディープテック分野において、取引規模は控えめながら、英国のRapyd Financialによる5億ドルのほか、英国の暗号資産およびクラウドインフラストラクチャ企業のPS Minerの3億5,000万ドル、フィンランドの量子コンピューティング企業IQMによる3億2,000万ドルなど複数のラウンドが行われました。

欧州の投資家は強気を維持する一方、不確実性のなかでディールメイキングは長期化傾向に

ベンチャーキャピタルがマクロレベルで依然として欧州において強気な姿勢を維持するなか、ベンチャーキャピタルはより綿密なデューデリジェンスを実施しています。一方で、スタートアップは資金調達の必要性を減らす目的でコスト削減と効率性の最大化を続けており、現在のマクロ経済と地政学的環境を考慮すると、欧州でのディールメイキングにはここ数四半期よりもはるかに長い時間がかかるています。また、スタートアップは投資家を引き付けるために収益性への明確な道筋を持つことの重要性が増していることを認識し、イグジット戦略を再検討しています。

欧州ではクリーンテック分野への投資が続く

米国政府の方針の影響もあり、世界的にクリーンテック分野への関心が低下しているなか、欧州ではクリーンテック分野への高い関心が続いているいます。2025年第3四半期、陸上で持続可能な養殖を行うアイスランドのLaxeyによる1億8,300万ドルのほか、ドイツの家庭用エネルギー管理会社One KOMMASの1億7,500万ドル、スウェーデンのヒートポンプ開発会社Airaによる1億7,400万ドル、スイスの炭素除去にフォーカスしたClimeWorksの1億6,200万ドル、英国の太陽光発電会社Sunsaveによる1億5,200万ドルなど、さまざまなクリーンテック企業が1億ドル以上の資金を調達しました。欧州地域全体でエネルギー転換に戦略的に取り組んでいることから、代替エネルギーはクリーンテック分野への投資の重要な推進力となっています。

英国では長引くマクロ的な逆風にもかかわらず回復傾向に

2025年第3四半期の英国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、低調だった前四半期から回復し62億ドルを記録しました。取引数は以前少いままでしたが、地政学的な対立や貿易への懸念、予想を下回る経済成長などの逆風が續くなか、投資家が慎重ながらも投資を再開したためと考えられます。

英国のベンチャーキャピタル市場は米国の投資家に魅力的に捉えられていることもあり、長期的な見通しは建設的です。多くの投資家が英国を国境を越えた資本フローの戦略的ハブであると考えています。

フィンテックは、引き続き英国において最も投資家から注目される分野の1つで、支払いからモバイルウォレット、送金、カード発行、詐欺防止などの金融ハブプランを提供するRapyd Financialによる5億ドルのほか、AIクラウドマイニング企業PS Minerの3億5,000万ドル、AI賃掛金ソフトウェア開発企業Xelixの1億6,000万ドルなどが行われました。フィンテック以外にも、英国ではエネルギー・防衛テック、ヘルスケア、バイオテック分野も投資家からの注目を集めましたが、フィンテックと比較してそのレベルは控えめでした。

アイルランドでの投資は軟調に推移

アイルランドは比較的堅調な2四半期の後、2025年第3四半期は米国とEU（欧州連合）間の貿易協定の締結をきっかけにアイルランドへの投資が年末までに再び回復すると期待されたなか、当初予想を下回る経済成長や地政学的緊張の継続、関税への懸念などによりやや一息ついた状況です。2025年第3四半期の減速にもかかわらず、アイルランドではフィンテックとAI分野への高い関心が続いているいます。

欧州 – 2025年第3四半期 (2/3)

ドイツではベンチャーキャピタル市場の改革により、実績のあるプレーヤーに資金が集まる

2025年第3四半期、ドイツのベンチャーキャピタル市場は急減速し投資総額は13億ドルと8四半期ぶりの低水準でした。これは、ドイツではベンチャーエコシステムの継続的な改革の影響から多くの投資家が投資先をミドルステージからレイターステージの案件や、実績のある経営陣、明確な市場牽引力、そして現在の経済的優先事項との強い整合性を持つ企業に集中したためと考えられます。

アーリーステージからのこのシフトは、2~3年前にプレシードステージやシードステージで資金を調達したスタートアップにとっては逆風となり、それらのスタートアップの多くは成長を支える追加資金の確保に苦慮しています。

当四半期のドイツにおける最大の案件はインシュアテック企業Wefoxによる1億7,500万ドルでした。ドイツの市場全体が鈍化するなかでも、投資家の差別化されたサービスを提供する確立されたプレーヤーへの投資意欲を表しています。

北欧地域では量子コンピューティングへの関心が高まる

北欧地域におけるベンチャーキャピタルによる投資は、長く続いた低迷期を経て7四半期ぶりに回復の兆しを見せ、2025年第3四半期の投資総額は18億ドルに達しました。北欧地域では、フィンランドの量子コンピューティング企業IQMによる3億2,000万ドルのほか、スウェーデンのAIアプリ開発企業Lovableの2億ドル、同じくスウェーデンの代替エネルギー企業Airaの1億7,400万ドルなど、1億ドル超のラウンドが3件ありました。北欧地域で注目すべきトレンドの1つは、イノベーションと長期的な経済発展を目的に、年金保険会社によるグローステージ企業への直接投資の増加が挙げられます。

当四半期、欧州で最も期待されていたイグジットの1つ、スウェーデンに拠点を置くKlarnaが米国のニューヨーク証券取引所(NYSE)でIPOを行い、13億ドルを調達しました。上場初日に同社の株価が15%上昇し、スケールアップを目指す北欧地域のスタートアップに対する投資家の新たな意欲を示しています。

北欧地域では量子コンピューティングへの関心が極めて高く、フィンランドの第2の都市であるエスボーがこの分野のイノベーションと投資のハブとの見方が強まっています。さらに、米国のWorkdayによるスウェーデンに拠点を置くエンタープライズ向けAIソリューションプロバイダーのSanaの買収が発表⁵されるなど、AI分野の取引も堅調です。

2025年第4四半期に注目すべきトレンド

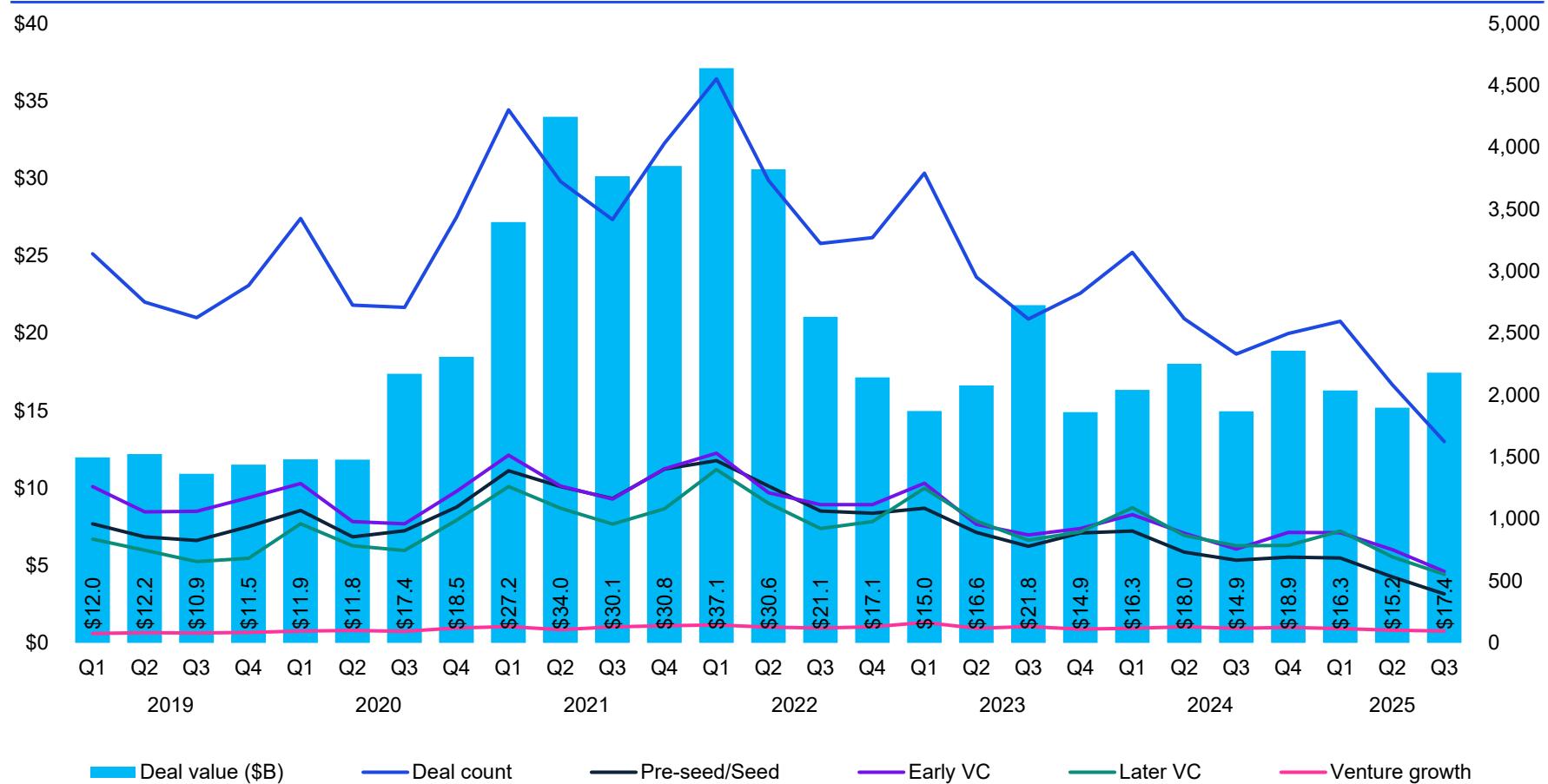
2025年第4四半期に向けて、米国とEUとの間で貿易協定が締結され、市場の不確実性が一部取り除かれたことで、欧州におけるベンチャーキャピタルによる投資が活発化し始めるという慎重ながらも楽観的な見方があります。世界的にESG(環境・社会・ガバナンス)が後退する可能性があるなか、クリーンテック、特に代替エネルギー分野への投資は、欧州における気候変動対策とエネルギー転換への強いコミットメントを考慮すると、欧州では堅調が続くと予想されます。AI分野、特にヘルスケア分野向けのAIアプリケーションと防衛テックは、どちらも2025年第4四半期の欧州における主要な投資先分野であり、さらに、量子コンピューティングとディープテックへの注目はますます高まる予想されます。

⁵ <https://newsroom.workday.com/2025-09-16-Workday-Signs-Definitive-Agreement-to-Acquire-Sana>

欧州 – 2025年第3四半期 (3/3)

Venture financing in Europe

2019–Q3'25



Source: Venture Pulse, Q3'25, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of September 30, 2025. Data provided by PitchBook, October 15, 2025.



好調なスタートを切った2025年でしたが、第2四半期から第3四半期にかけては地政学的緊張の高まりなどにより、アイルランドのベンチャーキャピタルにとって困難な四半期となりました。とはいえ、フィンテック、ヘルステック、AIソフトウェア事業は引き続き投資を呼び込んでおり、世界的に明るい見通しが出てきていることから、2025年末から2026年にかけて投資家心理は慎重ながらも楽観的です。



Gavin Sheehan

Partner
Deal Advisory
KPMG アイルランド

アフリカ－2025年第3四半期（1/2）

過去5年間、アフリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資は安定していましたが、減少傾向が見られます。アフリカ大陸のさまざまな地域で行われた投資案件は、世界のベンチャーキャピタル市場全体の傾向を反映して2022年をピークに減少しています。多くの投資家は投資の機会を求めて、アフリカ地域内のさまざまな国や地域に目を向けています。

アフリカで注目が高まるフィンテック

フィンテック分野は、アフリカ地域において最も活発にベンチャーキャピタルによる投資が行われた分野で、なかでも決済分野への投資家の関心は高くなっています。そうしたなか、ケニアでスタートしたモバイル決済サービスプラットフォーム「M-PESA」はアフリカ地域の他の国にも市場を拡大していることもあり、ケニアは決済分野のリーダーと捉えられています。

フィンテック分野は、アフリカ地域では成長途上にあり進化を続けていますが、アフリカ地域では最も成熟した投資先分野の1つです。2021年にはナイジェリアに拠点を置くワントップバンキングプラットフォームのOPayとセネガルに拠点を置くモバイル決済企業のWave、2024年にはナイジェリアに拠点を置くマイクロファイナンス銀行のMoneypointと、アフリカ地域では5年間に3社のユニコーン企業が誕生しています。

投資家の関心がフィンテック以外の分野にも広がる

アフリカのさまざまな地域でベンチャーキャピタルエコシステムが形成されるなか、多くの投資家が分野を問わずイノベーションを起こすスタートアップに高い関心を寄せています。フィンテックが引き続き投資先分野のトップランナーである一方で、農業のアグリテックや気候テック、ヘルスケアなどの分野も注目を集め始めています。アフリカ地域のベンチャーキャピタルはイノベーションを重視しており、ユニークで革新的なテクノロジーやAIソリューションを持つスタートアップに関心を寄せています。

ファミリーオフィスの設立がベンチャーキャピタル市場で活発に

アフリカでは近年、成功を収めたビジネスを所有する一族によるファミリーオフィスの設立が増えています。多くの場合、彼らは長年経営してきたビジネスをイグジットすることにより得られた資金を別のビジネスに投資する目的でファミリーオフィスを設立しています。これらのファミリーオフィスは、アフリカのさまざまな地域のベンチャーキャピタル市場で果たす役割は増しています。

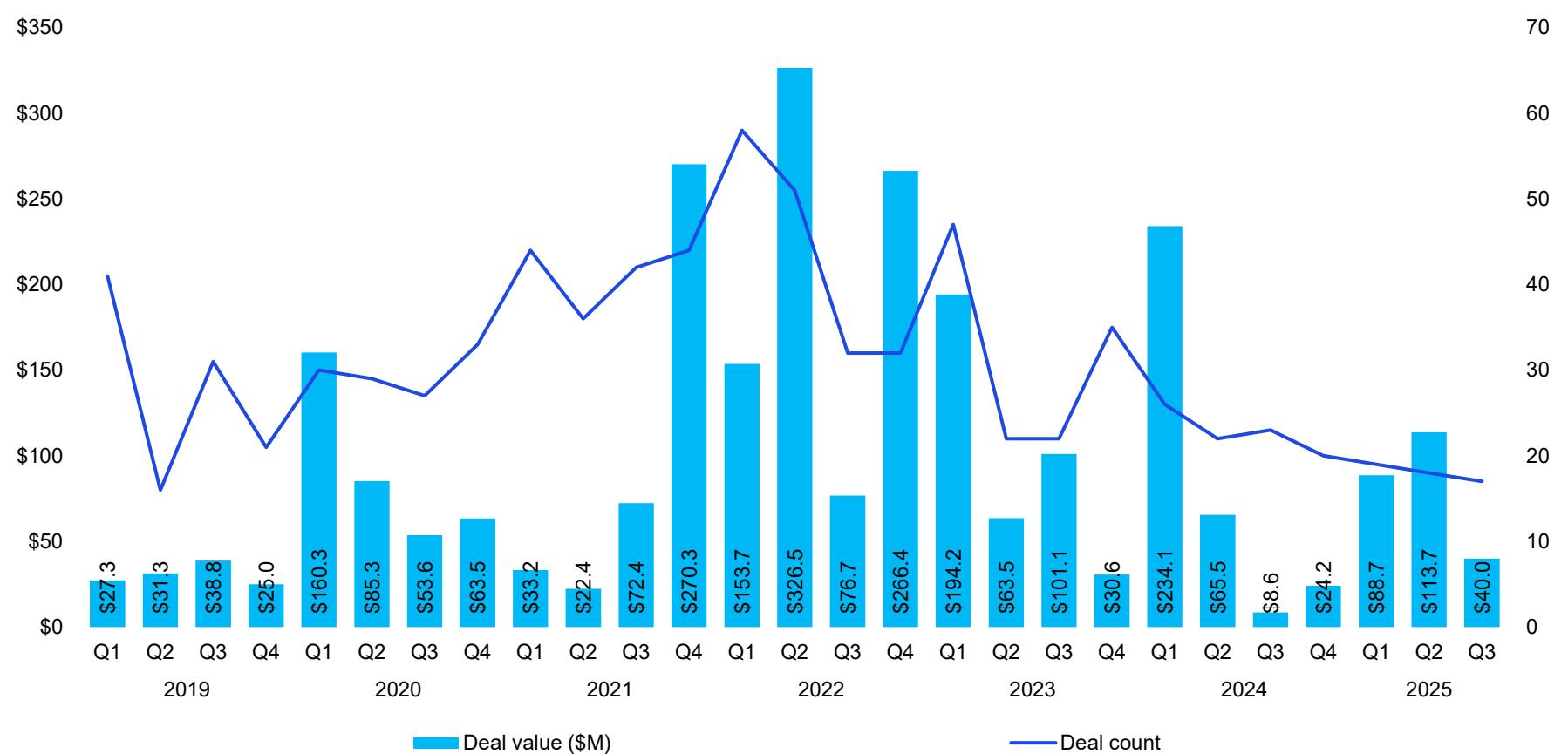
2025年第4四半期に注目すべきトレンド

2025年第4四半期から2026年にかけて、アフリカへのベンチャーキャピタルの関心はますます高まり、M&Aや投資が増加すると予想されます。また、ベンチャーキャピタルは投資先企業が成長するためにより積極的な役割を果たすことが期待されています。分野別ではフィンテックがアフリカにおけるベンチャーキャピタルによる最大の投資先分野であり続けると予想され、アグリテックや気候テックのほか、ユニークなソリューションを持つ企業への関心も高まると考えられます。将来的には、アフリカで活動している多くの慈善財団が資金を投資に振り向ける可能性があります。

アフリカ – 2025年第3四半期 (2/2)

Venture financing in Southern Africa

2019–Q3'25



Source: Venture Pulse, Q3'25, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of September 30, 2025. Data provided by PitchBook, October 15, 2025.

“

さまざまな要因が不確実性と資金調達のダイナミクスに影響することで、資金が従来のプライベートエクイティやベンチャーキャピタル、あるいはエンジェル投資家以外にも拡大していることがわかります。多くのアフリカの一族がファミリーオフィスを設立し、さまざまな事業に投資することの重要性を認識しています。また、アフリカでは持続可能な投資を可能にするブレンデッド・ファイナンスや政府系ファンド、年金基金、ファンド、コーポレートベンチャーキャピタルなど、投資形態の広がりを見せていました。

”



Sandeep Main
Partner, Tax and
Regulatory Services
Head of Private Enterprise
KPMGアフリカ

アジアー2025年第3四半期 (1/4)

2025年第3四半期のアジアのベンチャーキャピタによる投資は、地政学的および貿易上の緊張の継続、中国のマクロ経済環境の不確実性、そしてアジア全域での大型案件の不在などもあり低調に推移しました。投資総額は168億ドルに達し2025年第2四半期の水準をわずかに上回りましたが、依然として過去の水準を大きく下回っています。アジアの投資総額約半分を占める中国での投資額は84億ドルで、前四半期に見られた記録的な低水準から緩やかな回復を示しましたが、投資家に根強く残る警戒心から、中国ではここ数年で最も低調な四半期の1つとなりました。当四半期、アジアでの最大の案件は中国に集中しており、FAW Bestuneによる4億6,200万ドルを筆頭に、GLPの3億4,800万ドル、Galactic Energyの3億3,500万ドルが続きました。

D+ラウンドを除き、取引数は低調に推移

2025年のアジアにおける取引数はここまで低調に推移し、2025年第3四半期末時点ではほとんどのシリーズで前年を大きく下回っています。そうしたなかシリーズD以降は例外で、この傾向が2025年第4四半期まで続けば、取引額の平均は大幅に減少するなかシリーズD以降の取引数は前年比で増加すると見込まれます。シリーズD以降の取引数の増加は、アジアにおけるスタートアップの急速な成長を反映していると考えられます。特にAIやディープテック分野の成長が、日本やインド、インドネシアなどで顕著に現れているほか、レイターステージで資金調達を行う企業が増えていることも影響していると考えられます。一方、取引額の平均の大幅な減少は、中国におけるベンチャーキャピタルの投資活動の減少によるものと考えられ、現在のシリーズD以降の案件規模は、スタートアップがKPIを満たすために必要な金額だけを調達していることを反映している可能性が高いと考えられます。

アジア全域において、AI対応とインフラがベンチャーキャピタルの関心の上位に

2025年第3四半期、アジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資の中心は依然としてAIであり、中国企業が最も多くの資金を調達しました。当四半期のアジアでの最大の案件は、データセンタープラットフォームを手がけるGLPによる3億4,800万ドルと、テキストから動画を生成するAIを手がけるMiniMax AIの3億ドルでした。さらに、スマートフォンに特化したAIエージェントの開発を手がけるZ.aiが1億3,100万ドルを調達し、中国で勢いを増しているAIアプリケーションの多様性を示しました。

日本でも、AIのユースケース案件で動きが加速しました。注目すべきラウンドには、自動運転システムに焦点を当てたT2による3,300万ドル、不動産イネーブルメントプラットフォーム

を手がけるTERASSの2,100万ドルなどが挙げられます。日本は、AIとディープテック分野で重要な国内の半導体生産やインフラの促進を目的とした政府によるさまざまな支援もあり、AIとディープテック分野のイノベーションハブとしての地位をますます高めています。

中国における大型投資や日本のAIとディープテック分野におけるイノベーションハブとしての台頭は、AIがアジアにおけるベンチャーキャピタル活動の中心であり続けていることを示しています。

アジアでのIPOは2024年実績を超える

アジアにおけるIPOは、当四半期末時点の総額すでに2024年通年の数字を上回り、2023年の実績をも上回る勢いです。この勢いの大部分は香港(SAR)が牽引しており、香港(SAR)ではここ数ヶ月、産業、消費者、ヘルス・ライフサイエンス、エネルギー・資源、金融サービスなど、多岐にわたるセクターでの上場が見られます。

当四半期、日本でのIPOも堅調に推移しましたが、金利の上昇と上場要件の厳格化により、IPOを検討するスタートアップの熱意は薄れています。その結果、ますます多くの日本のスタートアップがM&Aをより魅力的なイグジットの選択肢として考え始めています。

全体として、香港(SAR)におけるIPOのパイプラインの強さと日本の行動変容は、アジアの株式市場が新たな活力を見せる一方で、イグジット戦略は依然として市場と政策に大きく依存していることを浮き彫りにしています。

アジアー2025年第3四半期 (2/4)

中国ではユニコーン企業の勢いに陰り

中国における2025年第3四半期のベンチャーキャピタルによる投資は、地政学的緊張の高まりや厳しい経済環境、不動産不況などが要因となり低調に推移しました。中国では、ベンチャーキャピタルがユニコーン企業にフォーカスした投資戦略を見直した結果、案件ごとの取引規模が縮小したと考えられます。現在の市場環境を考えると、多くのベンチャーキャピタルはリスクを分散するために、急速に進化するAI分野を中心に幅広い企業を支援することに重点を置き始めています。

インドでは不透明な地政学的環境のなかで投資は低調に推移

2025年第3四半期のインドにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、世界的な地政学的不確実性に加えて、米国との貿易摩擦が主な原因で低調に推移しました。投資家のインドへの関心は依然として高い一方で、何が起こるのかを予測することが困難である状況から、多くの投資家が大型の投資を控えています。当四半期のインドにおける最大の案件は、消費財配送事業に特化したMitraによる1億4,000万ドルでした。

インドではスタートアップのIPOによるイグジットに関して楽観的な見方が続いています。当四半期、IPOは前四半期に比べて活発に行われ、便利屋さん派遣アプリを提供するUrban Companyがボンベイ証券取引所 (BSE) に上場し、株価は取引初日に74%上昇しました⁶。

日本のベンチャーキャピタル市場は慎重だがコーポレートベンチャーキャピタルは勢いを維持

2025年第3四半期、日本のベンチャーキャピタルによる投資は、貿易摩擦や政治的不確実性、高金利のなかで投資家が慎重な姿勢を維持したため、前四半期の16億ドルから13億ドルへとわずかに減少しました。日米間の新しい貿易協定は15%のベースライン関税を伴うことから、ロボットや半導体などのハードテックスタートアップに影響がある一方で、AIやバイオテクノロジー、国内に焦点を当てた企業への影響は少ないと考えられます。

日本ではコーポレートベンチャーキャピタルによる投資が資金調達の多くを占めるなか、投資家の多くは大型の案件を避け、国内市場向けや多様なグローバル戦略を持つスタートアップに対して、アーリーステージでの投資に重点を置いています。

当四半期の主な資金調達では、Newmoによる179億円 (\$124 million) をはじめ、Terra Chargeの104億円 (\$72 million) などが挙げられます。AIやヘルスケア、エネルギー、宇宙、モビリティ分野が引き続き投資家からの高い関心を集め、なかで投資先の二極化がますます鮮明になり、実績のある企業や大規模なベンチャーキャピタルが繁栄する一方で、小規模なファンドや体力のないスタートアップは大きなハードルに直面しています。

2025年第4四半期に注目すべきトレンド

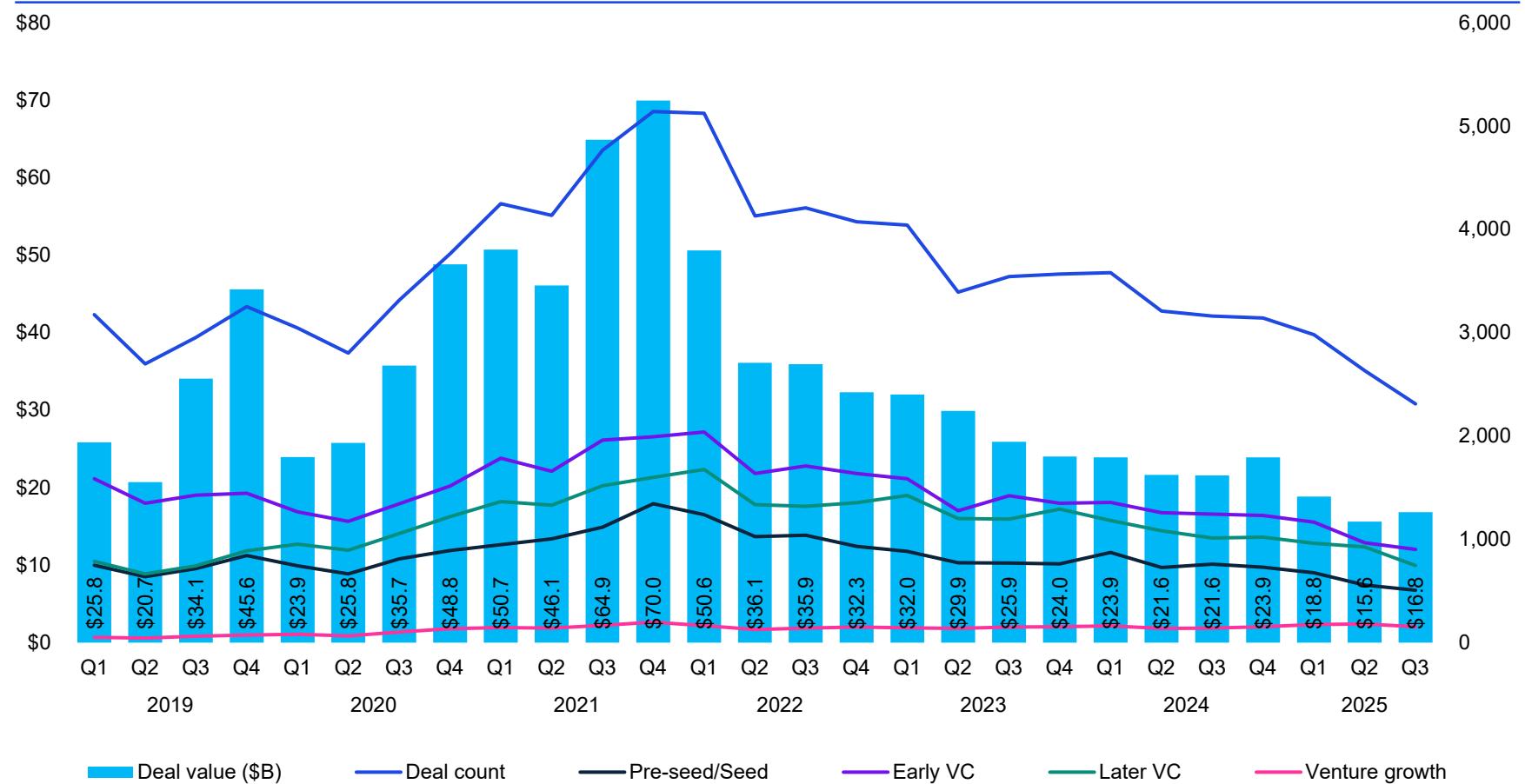
2025年第4四半期に向けてアジアでは、特に景気回復に時間がかかると予想される中国におけるベンチャーキャピタルによる投資は引き続き低調に推移すると予想されます。AIとデイ一ペック分野に加え、ヘルスケアとバイオテクノロジー分野が引き続きアジアの投資家の投資先として最優先分野であり続けると考えられます。インドでは強力なマクロ経済と活気ある資本市場から、貿易の不確実性が解消されればベンチャーキャピタルによる投資が回復するという楽観的な見方があります。また、インドでも、今後数四半期の間にさらなるIPOが行われると予想されます。日本では今後数四半期にわたり、M&AがIPOに代わって主要なイグジットの手段になる可能性が高く、スタートアップ同士のM&Aも増加すると考えられます。第4四半期は、特に半導体、エネルギー、モビリティ、ヘルスケア分野における企業による戦略的な投資が注目されます。

⁶ <https://www.msn.com/en-us/money/savingandinvesting/indias-urban-company-soars-74-in-trading-debut-hits-about-3-billion-valuation>

アジア – 2025年第3四半期 (3/4)

Venture financing in Asia

2019–Q3'25



Source: Venture Pulse, Q3'25, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of September 30, 2025. Data provided by PitchBook, October 15, 2025.

“ 市場は香港 (SAR) の株式市場の活況に牽引され活発化しています。企業も投資家も、来年のイグジットの機会について楽観的な見方を強めています。興味深いことに、取引活動はもはやハードテックに限定されておらず、消費財や製造業などの伝統的なセクターにも勢いが見られます。 ”

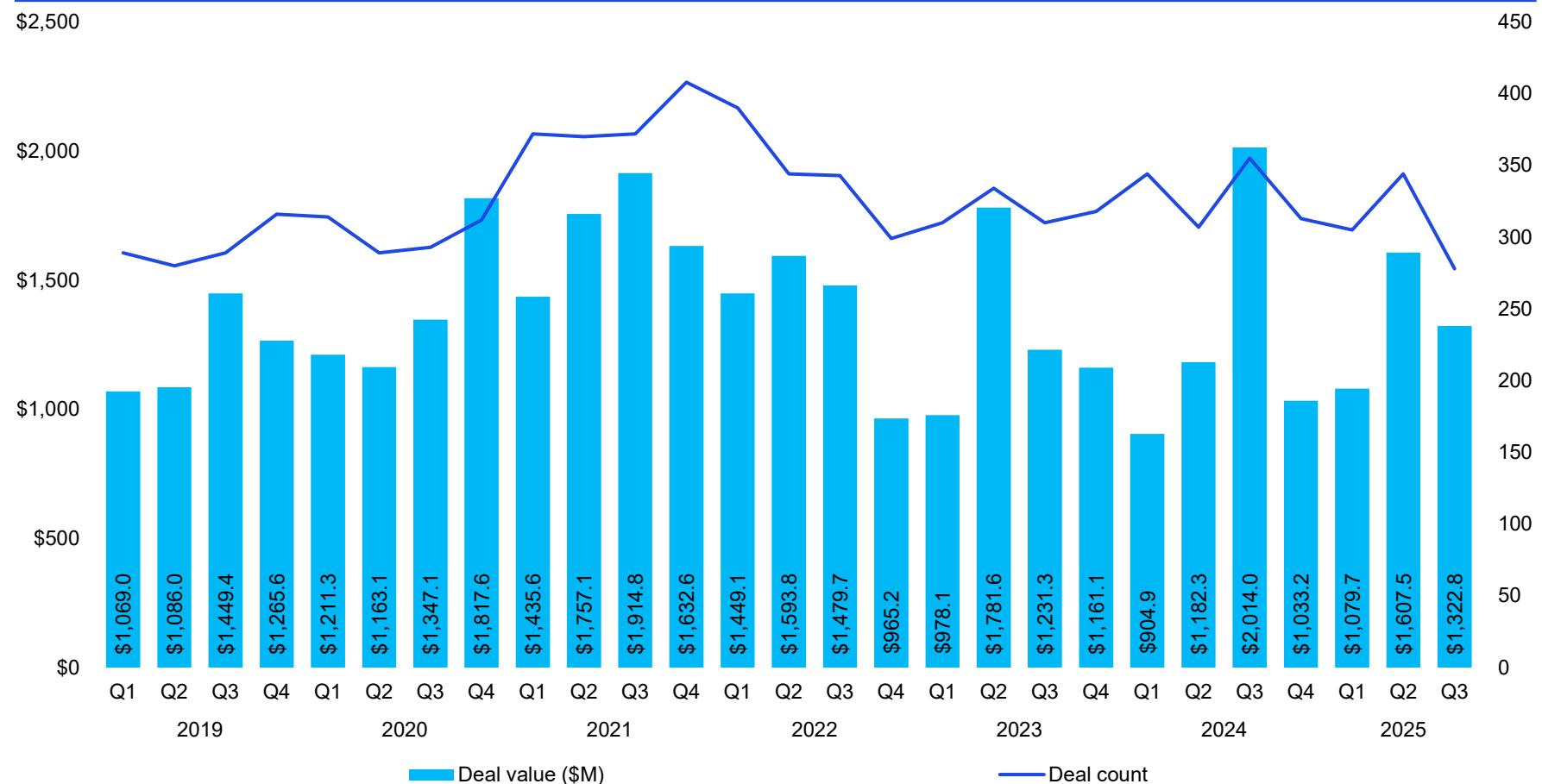


Zoe Shi
Partner
KPMG中国

アジア – 2025年第3四半期 (4/4)

Venture financing in Japan

2019–Q3'25



Source: Venture Pulse, Q3'25, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of September 30, 2025. Data provided by PitchBook, October 15, 2025.

“

日本のスタートアップによる資金調達は比較的安定しています。しかし、実績のあるスタートアップが引き続き資金を調達する一方で、投資家が大型案件に慎重になるにつれて、調達額の差は広がっています。多くの投資家はリスクを慎重に管理しながら、有望なスタートアップに早い段階で関与する戦略をとっており、アーリーステージの投資は回復し始めています。

”



阿部 博
常務執行理事
スタートアップ統轄
パートナー
有限責任 あずさ監査法人

本レポートについて

メソドロジー（方法論）

KPMGのプライベートエンタープライズセクターが四半期ごとに発行する「Venture Pulseレポート」は、米国のPitchBookのデータを使用しています。

本レポートでは、中東・南アジア（MESA）地域およびアフリカ地域については分析の基となるデータセットと検証可能な傾向などが不足していることから、地域ごとの集計に分類されていません。一方、グローバルの数値にはMESAやアフリカ地域に加え他の地域も含まれるため、本レポートの南北アメリカ、アジア、欧州の各地域の数値を合計してもグローバルの合計とは一致しません。

本レポートでは、特に欧州地域においてPitchBookがプライベートエクイティ（PE）としてトラッキングしているトランザクションについて、レイターステージのベンチャーキャピタル（VC）との混同や特定の資金調達ラウンドに関して混乱が生じる可能性があることから、これらのトランザクションは含んでいません。PitchBookでは、PEグロース投資ラウンドをPE投資家が非公開企業の少数株を取得したときに発生する金融投資と定義しており、投資家がPitchBookによりPE投資家と分類され、かつ出資を受ける企業の唯一の資金調達先である場合はPEグロース投資として分類され、本レポートのデータセットには含まれません。ただし、2022年第4四半期版のVenture Pulseレポートより、レイターステージのVCのグロースを説明するためにPitchBookにより考案されたベンチャーの新しいステージが含まれ、ベンチャーグロースとして定義しています。

また、企業が製造業とインフラを除くPitchBookが定める業種のいずれかにタグ付けされている場合は、その企業は保持されます。それ以外の場合、建物と不動産、貯蓄と住宅ローン、不動産投資信託、石油とガスの設備、公共事業、探査、生産、精製といった業界はグロースエクイティファイナンスの計算から除外されます。なお、対象となる企業は、対象となるラウンドの前にM&Aや買収、新規公開株（IPO）を完了していなければなりません。

資金調達

PitchBookでは、VCファンドをスタートアップ企業の株式への投資を目的として調達された資金のプールと定義しています。PitchBookでは、同様に従来のVCによって調達された資金に加え、スタートアップ企業の株式への投資を主な目的としてあらゆる機関によって調達された資金も含んでいます。グロースステージのピークルとして識別されるファンドはPEファンドとして分類され、本レポートには含まれていません。ファンドの所在地は、ファンドの投資チームが拠点を置く国によって決定されます。その情報が明確ではない場合には、ファンドのジェネラルパートナーの本社所在地が使用されます。資金調達の数字には、最終クローズを行った米国を拠点とするファンドのみが含まれます。ファンドの金額は、ファンドの最終クローズの年にカウントします。中間クローズの金額は、中間クローズの年にカウントされません。

取引

PitchBookでは、外部からのスタートアップ企業への株式投資が含まれます。投資は、必ずしも機関投資家からである必要はない、個人のエンジェル投資家、エンジェルグループ、シードファンド、ベンチャーキャピタル企業、コーポレートベンチャー企業、企業投資家、機関投資家などからの投資が含まれます。なお、アクセラレータプログラムの一環として受けた投資は含まれませんが、アクセラレータが引き続き後続ラウンドに投資する場合は、それらの追加資金調達は含まれます。すべての資金調達は米国に本社を置き、かつ合同統計地域（CSA）のエコシステムを形成する企業です。PitchBookでは、部分的な負債と株式を含む取引を含んでいます。

• **プレシード／シード：**プレシードステージには、少なくとも1つの機関投資家から最初の小切手を受け取り、開発の成長を促進する新興スタートアップが含まれます。グローバルスタートアップの場合、機関投資家の以前の取引参加に応じてエンジェルディールを再分類しています。会社の投資家ベースが個人投資家のみで構成されているために「エンジェル」としてタグ付けされた取引は、ステージ方法論に基づいて、アーリーステージまたはレイターステージのVC取引カテゴリーに再分類されます。2023年第4四半期のVenture Pulseレポート以降、米国と欧州に本社を置くスタートアップの場合、プレシードは設立から2年未満、かつ機関投資家からの支援を受けていないスタートアップの資金調達ラウンドと定義しています。

• **アーリーステージ：**アーリーステージラウンドは、一般に資金調達で発行された株式のシリーズがシリーズAまたはB（通常はアーリーステージとしてまとめて）に分類されている、または、その情報が入手できない場合には会社の設立年数、資金調達履歴、会社のステータス、出資者などの要因によって分類しています。

• **レイターステージ：**レイターステージラウンドは、一般に資金調達で発行された株式のシリーズがシリーズCまたはD以降（通常はレイターステージとしてまとめて）に分類されている、または、その情報が入手できない場合には会社の設立年数、資金調達履歴、会社のステータス、出資者などの要因によって分類しています。

• **グロース：**シリーズE以降としてタグ付けされた資金調達、または設立から7年以上経過し少なくとも6回のVCラウンドを調達したスタートアップが関与する取引を、2023年1月に刊行された2022年第4四半期版Venture Pulseレポートよりこのカテゴリーに含みます。

• **コーポレート：**現在VCの支援を受けているスタートアップ企業で、PitchBookの他のベンチャーファイナンスの基準を満たす企業による資金調達ラウンドを、2018年3月よりVenture Pulseレポートに含んでいます。

• **コーポレートベンチャーキャピタル：**コーポレートベンチャーキャピタル（CVC）として分類される資金調達には、既存のCVC部門を通じて投資する企業と、バランスシート外の株式投資を行う企業、またはその他の非CVC手法が採用されているラウンドが含まれます。

イグジット

PitchBookでは、株式の公開（IPO）や他のエンティティによる株式の過半数取得（企業または金融買収）など、VCの支援を受けた企業の株式保有者にとって最初の過半数流動性イベントが含まれています。一方、二次売却、最初の流動性イベント後のさらなる売却、または破産は含まれません。M&Aの価値は、報告または示された数値に基づいており、実際の取引規模が不明な取引の価値を評価するために推定値は使用していません。IPOの価値は、IPO価格での企業のプレマネー評価に基づいています。方法論において、VCの支援を受けた企業の公開市場への移行を追跡するさまざまな方法に対応するために、カテゴリーを「IPO」から「公開上場」に変更しています。公開する企業の全体像を把握するために、方法論の変更により更新されたグループには、IPO、直接上場、および特別買収目的会社（SPAC）による逆合併が含まれます。

2019年第1四半期以降のVenture Pulseレポートでは、PitchBookのイグジット総額に関する方法論を、IPOの規模をイグジット総額として利用するのではなく、発行済み普通株式に基づくIPOの事前評価の利用に変更しました。この変更により、イグジット総額が大幅に変更されました。業界が公開市場を通じたイグジットの実際の規模をどのように見ているかが反映されるようになっています。また、2021年第1四半期以降のVenture Pulseレポートでは、IPOイグジットタイプが更新され、SPACやその他の逆合併を含むすべてのタイプの上場が含まれます。



大谷 誠
プライベートエンタープライズセクター
統轄パートナー
KPMGコンサルティング株式会社
パートナー
makoto.otani@jp.kpmg.com

阿部 博
プライベートエンタープライズセクター
スタートアップ統轄パートナー
有限責任 あずさ監査法人
パートナー
hiroshi.abe@jp.kpmg.com

佐藤 太基
有限責任 あずさ監査法人
パートナー
daiki.sato@jp.kpmg.com

須藤 章
有限責任 あずさ監査法人
シニアマネジャー
akira.sudo@jp.kpmg.com

KPMGジャパン
kc@jp.kpmg.com

プライベートエンタープライズセクター
kpmg.com/jp/private_enterprise

英語オリジナル

Venture Pulse Q3 2025 : Global analysis of venture funding



本冊子は、KPMGインターナショナルが2025年10月に発行した「Venture Pulse Q3 2025: Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を細密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。本文中では、Copyright、TM、Rマーク等は省略しています。

© 2025 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited（「KPMGインターナショナル」）の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社（private English company limited by guarantee）です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://kpmg.com/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2025 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. C25-1053

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.